

世界最大級の人権NGOで東京センター開設に取り組む

ひと

どいかなえ
土井 香苗 さん(33)

弁護士からの念願の転身である。9月から世界的な人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW、本部・ニューヨーク)東京ディレクター。ただ1人の日本人常勤スタッフだ。収入は半減したが、「世界の人権に全力投球できる。エキサイティングです」。

大学3年で司法試験に合格。弁護

士になって、アフガニスタンやイランからの難民に向き合った。民族が違っただけでコンテナに閉じこめられたり、「戒律」の名の下にマニキュアの手を酸につけられたり。

世界の人権に目が向かったのは中学時代だった。国語の授業で、作家犬養道子さんの著書「人間の大地」に出会い、そのアフリカ難民キャンプ・ルポに心を動かされた。

「すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊厳と権利とについて平等である」。そううたう世界人権宣言の実現に働きたい。

HRWは約240人の専門スタッフを中心に、約80カ国で監視活動をする。対地雷禁止条約では他の団体などとノーベル平和賞を受けた。

「人権」ではしかし、日本の存在感は薄い。留学したニューヨークで痛感した。HRW幹部職員を日本に連れてきて、外国支援や平和国家としての日本の力を説いた。国際法を駆使して、講演や報道、国会議員たちに「人権」を働きかけながら今、東京センター開設準備に追われる。

「人権抑圧というのは、気づいたときには、もう遅いんです」